



ゆつくりと朝日が昇り始めた。年間に400回もの爆発噴火を繰り返す桜島南岳のさらに南の地平線から、朝日が昇り始めた。今朝の桜島は噴火を繰り返す活火山とは思えない静かな佇まいである。西郷隆盛の最後の地である城山のホテルの露天風呂《薩摩の湯》から、彼の巨体の象徴とも思える桜島の勇姿が眼前に広がっている。

昨日の午前4時30分に起床して、暗闇の中を蛇行だらけの指宿スカイラインを南下する

煙はうすし 桜島

― 変動の新年を迎えて ―

情報広報部副部長

橋本 洋一

込んだ。

こと1時間30分で、日本本土最南端の日本百名山『開聞岳』の登山口に到着した。学会発表の午後1時30分に間に合わせるために、午前7時に登頂開始。途中で天気予報通り、雨が降り始めたが、鬱蒼と茂る広葉樹が私達の体を雨の滴から守ってくれた。2合目から登り始め、木製ハシゴが急な傾斜の岩場に設置されている7合目を越えて、予定より遅れること15分の9時15分に頂上到着。阿蘇カルデラの外輪付近に位置するこの開聞岳は貞観16年(874年)、仁和元年(885年)の2度

にわたる大噴火により山頂に溶岩ドームが噴出し、現在の薩摩富士といわれるコニーデ型の山容になったらしい。この両噴火が起きたのは、島津家が南九州を支配する300年以上も前のことである。頂上では雨がひいて、北方にはイッシーで有名な池田湖が、南方には薩摩半島の南の海岸線と東シナ海が眺望できた。皇太子殿下登頂記念碑で写真を撮り、午前9時30分には下山開始。30人を超える中高年のパーティー3組と出会いながら(真ん中のパーティーの最後尾に

日本女性で初めてのヒマラヤ登山家の田部井淳子さんがおられた、午前11時に登山口に到着。指宿スカイラインを北上して、学会場である城山のホテルに午後1時に滑り

昨年9月に、無血革命と言われる『政権交代』が起きた。民主党の公約通り、骨太方針の社会保障費の自然増2200億の削減と後期高齢者医療制度が廃止されることが決定した。さらに医療費(GDP費)をOECD諸国並みに上げることがや医師数を現在の1.5倍にすることが提案された。当初、開業医と勤務医との所得格差が強調されたが、現在、修正されつつある。病床100床あたりの医

師数は米国の5分の1、独の3分の1でさらに毎年その格差が拡大傾向にある。医療費の約30%が薬剤で、米国、西欧諸国の2〜3倍に当たるし、胃粘膜保護剤のような日本でしか認可されていない薬が多くみられる一方、多数の外国で認められた抗ガン剤をはじめとした薬剤認可が遅れるといった現実が横たわっている。ペースメーカー、冠動脈ステントをはじめとした医療機器の販売価格が諸外国の1.5〜3倍している事実は高速道路整備に他国の数倍かかるという事実と連動しているように思える。正確なデータに基づいて一つ一つ修正されていかなければならない。

桜島南岳がまた噴火した。世の不条理に対する怒りとも取れる。鹿児島美術館横に建立されている陸軍大将の西郷隆盛像に遅れて平田橋に建立された大久保利通像は鹿児島県民には今ひとつ不人気であるが、明治維新を経て、近代日本に導いた功績は少なからぬものがある。南州こと西郷隆盛も、入水した錦江湾から不死鳥のように蘇り、日本の近代化に多大な貢献をした。明治維新ならぬ、平成維新(医新)という変動の時代を目の前にして、薩長両藩が主になって作り上げ、明治時代から140年続いた、疲弊した官僚政治からの脱却ができるか否かを見守っているに違いない。『我が胸の熱き思いに くらぶれば 煙はうすし 桜島』2010年新年を迎える今こそ、この熱い思いが必要とされている。